

令和3年度 外部被ばく量調査報告



バッジ着用期間：令和3年5月16日～7月15日(2ヶ月間)

測定時期については、長期間の休みがなく外活動が最も活発な時期を選び、毎年同じ期間で測定しています。通常的生活をしても、これ以上の被ばくにはならないという安全側に見積もった被ばく量計算の概念を取り入れたものです。

外部被ばく調査の目的

福島第一原発事故に由来する被ばく量を明らかにするために調べています。その際、自然放射線や医療放射線による被ばく量は除いております。

事故由来の外部被ばく量は一人ひとりの行動の違いによって異なりますので、各個人が計測器で測定することにより被ばく量を把握し、生活等の改善に活用することができます。また、市が放射線アドバイザーの指導の基に、調査実施者全体の結果をまとめて市内の実態を把握・評価することで、被ばく線量を減らすための方策検討の一助となります。

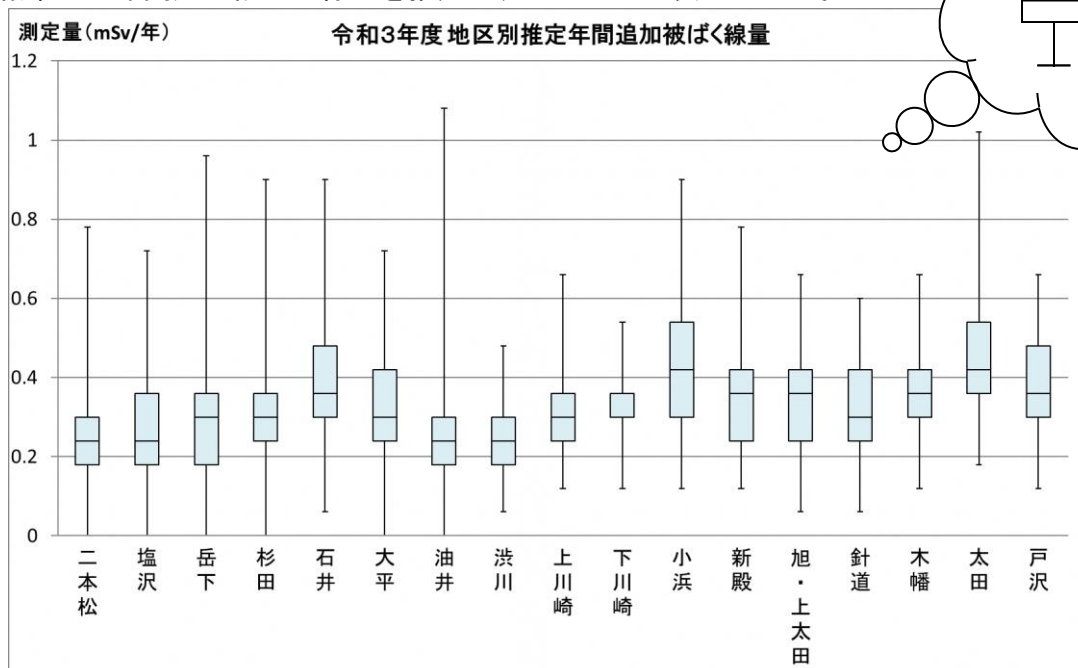
1. 測定状況及び推定年間追加被ばく線量

対象グループ	対象者 (人)	実測定者 (人)	提出率 (%)	推定年間追加被ばく線量		
				平均値 (mSv)	最大値 (mSv)	最小値 (mSv)
乳幼児(0～6歳)	2,021	949	46.96%	0.29	1.02	0.00
市内小学生	2,366	1,976	83.52%	0.30	0.78	0.00
市内中学生	1,314	831	63.24%	0.29	0.72	0.00
市外小中学生	50	12	24.00%	0.30	0.48	0.12
妊婦	194	44	22.68%	0.32	1.08	0.00
高校生相当	1,420	382	26.90%	0.35	1.08	0.00
19～20歳	974	157	16.12%	0.33	1.02	0.00
一般(21歳以上希望者)	70	63	90.00%	0.30	0.70	0.00
全測定者	8,409	4,414	52.49%	0.30	1.08	0.00

※推定年間追加被ばく線量にはX線検出者の値は含まれない。

<地区別推定年間追加被ばく線量>

測定結果から年間追加被ばく線量を推定し、地区ごとに表しました。



2. 推定年間追加被ばく線量詳細調査について

対象者

・市放射線アドバイザーと協議し、推定年間被ばく線量が1mSvを超えた4名の方と0.96mSvの方1名を合わせて5名（4世帯）を対象として実施いたしました。

調査方法

・電話・訪問等により聞き取り調査を実施。自宅の線量測定を希望される方はありませんでした。

詳細調査から分かったこと

対象者5名中、連絡の取れた2名については、自宅にバッジ式線量計を放置し、正しく装着していなかったために、正確な結果が得られなかった状況が確認できました。バッジ式線量計を正しく装着し、自分の被ばく線量を知るのが大切です。

市放射線アドバイザー木村先生からのメッセージ




新型コロナウイルスと放射能

皆さんにお示した令和3年度地区別推定年間追加被ばく線量のグラフをみると、放射線量の高低差がよくわかると思います。

事故のとき、原発から出てきた放射性物質（放射線を出すもの）はたくさんありました。しかし、多くは寿命が尽きてなくなりました。今、私たちのまわりにある放射性物質はセシウム137といわれるものです。このセシウム137は30年で半分の量になります。原発事故から11年経過したと考えると約23%しか減衰していません。

新型コロナウイルスは、いつか私たちの免疫システムが記憶し、インフルエンザウイルスくらいの影響になるでしょう。しかし、放射性物質は、私たちの体になじむことはありません。ですから、私たちが生きている間、ずっと気をつけなくてはならないのです。そのためには、1年に1度、ご自分がどのくらい被ばくをするか知ることが大切なのです。

放射線は、
ずっと出ているの？

へっていくのー

